

# 令和3年社会生活基本調査

## 生活時間及び生活行動に関する結果

### 沖縄県結果の概要

---

#### 目次

##### 結果の解説

- I 1日の生活時間の配分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - II 1年間の主な生活活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 

令和4年9月30日

沖縄県企画部統計課

## - 社会生活基本調査とは -

社会生活基本調査は、1日の生活時間の配分及び1年間の自由時間における主な生活活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」）について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的とするものである。昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施しており、今回の調査は10回目に当たる。

この調査は全国の世帯から無作為に選定された調査区に居住する10歳以上の世帯人員（本県では約1,700世帯）を対象に令和3年10月20日現在で実施された。

本資料は、総務省統計局が公表した調査結果から、沖縄県の結果をまとめたものである。

## - 利用上の注意 -

- 1 特に曜日の指定のないものは、1日の生活時間（週全体平均）の数値を記載しています。
- 2 生活時間は、総平均時間（該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均）を記載しています。
- 3 統計表の数字は、表章単位未満の位で四捨五入しており、また、総数に「不詳」の数を含むことから、総数と内訳を合計した数値とは必ずしも一致しません。
- 4 統計表中「0」は、集計した数値が表章単位に満たないものです。
- 5 統計表中「-」は、該当数字のない箇所です。
- 6 統計表中「・・・」は、サンプルサイズが10未満で、結果制度の観点から表章していない箇所です。

## 結果の解説

### I 1日の生活時間の配分

- 1 1日の生活時間の配分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2  
(1) 1次活動は増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少  
(2) 2次活動時間は男女共に35歳～44歳が最も長い
- 2 家事関連時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4  
家事関連時間は男性が増加傾向、男女差は縮小しているが依然として差は大きい
- 3 仕事の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
5年前に比べ男性の仕事時間は24分の減少、女性は25分の減少
- 4 スマートフォン・パソコンなどの使用状況・・・・・・・・・・・・7  
スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合は男女共に大きく増加

### - 主な用語 -

- 1次活動  
睡眠、食事など生理的に必要な時間
- 2次活動  
仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- 3次活動  
1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

## 1 1日の生活時間の配分

### (1) 1次活動は増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少

本県に住んでいる10歳以上の人について、行動の種類別に週全体平均(以下「週全体」という。)による1日の生活時間をみると、1次活動時間が10時間52分、2次活動時間が7時間04分、3次活動時間が6時間04分となっている。平成28年と比べると、1次活動は16分の増加、2次活動は7分の減少、3次活動は9分の減少となっている。(表1)

平成28年と比べると、睡眠の時間は20分の増加と最も増加が大きくなっており、仕事の時間は8分の減少と最も減少が大きくなっている。次いで、休養・くつろぎの時間が18分の増加、移動(通勤・通学を除く)、交際・付き合いの時間が7分の減少などとなっている。

男女別に平成28年と比べると、男性は休養・くつろぎの時間が18分の増加、睡眠の時間が15分の増加などとなっており、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が24分の減少、仕事の時間が12分の減少などとなっている。一方、女性は睡眠の時間が25分の増加、休養・くつろぎの時間が18分の増加などとなっており、交際・付き合いの時間が10分の減少、移動(通勤・通学を除く)が8分の減少などとなっている。(表1)

表1 男女、行動の種類別生活時間(平成28年、令和3年)一週全体

	総数			男			女		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
1次活動	10.36	10.52	0.16	10.35	10.48	0.13	10.36	10.56	0.20
睡眠	7.41	8.01	0.20	7.49	8.04	0.15	7.33	7.58	0.25
身の回りの用事	1.17	1.17	0.00	1.11	1.11	0.00	1.23	1.23	0.00
食事	1.38	1.34	-0.04	1.39	1.33	-0.03	1.40	1.35	-0.05
2次活動	7.11	7.04	-0.07	6.49	6.45	-0.04	7.32	7.22	-0.10
通勤・通学	0.30	0.30	0.00	0.35	0.35	0.00	0.26	0.25	-0.01
仕事	3.43	3.35	-0.08	4.40	4.20	-0.12	2.49	2.44	-0.05
学業	0.51	0.47	-0.04	0.52	0.50	-0.02	0.49	0.45	-0.04
家事	1.19	1.22	0.03	0.17	0.26	0.09	2.18	2.15	-0.03
介護・看護	0.05	0.03	-0.02	0.01	0.02	0.01	0.09	0.05	-0.04
育児	0.20	0.21	0.01	0.10	0.07	-0.03	0.30	0.35	0.05
買い物	0.23	0.26	0.03	0.14	0.18	0.04	0.31	0.33	0.02
3次活動	6.13	6.04	-0.09	6.36	6.26	-0.10	5.51	5.42	-0.09
移動(通勤・通学を除く)	0.26	0.19	-0.07	0.24	0.18	-0.06	0.28	0.20	-0.08
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.20	2.06	-0.14	2.34	2.10	-0.24	2.07	2.03	-0.04
休養・くつろぎ	1.33	1.51	0.18	1.36	1.54	0.18	1.30	1.48	0.18
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.12	0.11	-0.01	0.11	0.12	0.01	0.12	0.11	-0.01
趣味・娯楽	0.35	0.38	0.03	0.42	0.49	0.07	0.29	0.27	-0.02
スポーツ	0.17	0.17	0.00	0.22	0.21	-0.01	0.12	0.13	0.01
ボランティア活動・社会参加活動	0.03	0.02	-0.01	0.03	0.02	-0.01	0.04	0.01	-0.03
交際・付き合い	0.19	0.12	-0.07	0.18	0.13	-0.05	0.21	0.11	-0.10
受診・療養	0.07	0.06	-0.01	0.06	0.06	0.00	0.08	0.07	-0.01
その他	0.20	0.21	0.01	0.20	0.21	0.01	0.21	0.20	-0.01

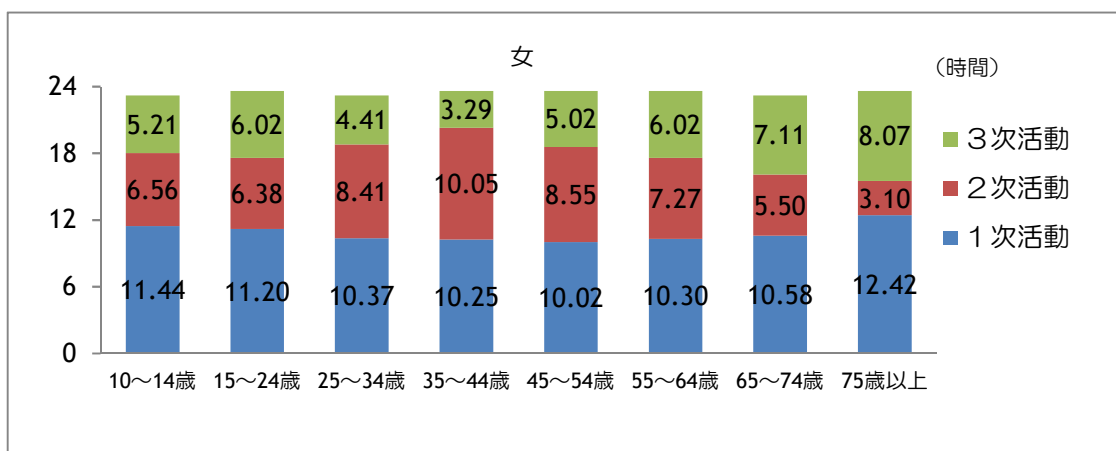
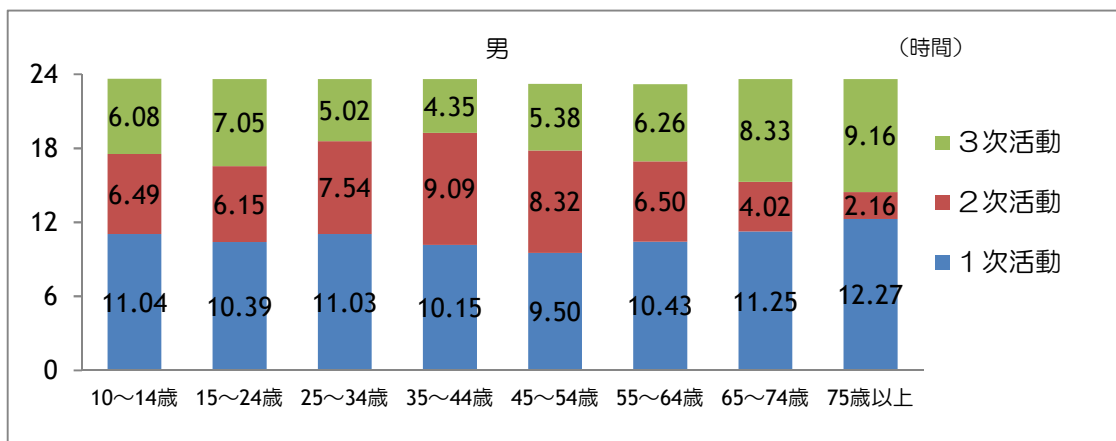
**(2) 2次活動時間は男女共に 35 歳～44 歳が最も長い**

生活時間を年齢階級別にみると、1次活動時間は、男女共に 75 歳以上が最も長く、45 歳～54 歳が最も短くなっている。

2次活動時間は、男女共に 35 歳～44 歳が最も長く、75 歳以上が最も短くなっている。

3次活動時間は、男女共に 75 歳以上が最も長く、男性 35 歳～44 歳、女性 35 歳～44 歳が最も短くなっている。(図1)

図1 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間一週全体



## 2 家事関連時間

### 家事関連時間は男性が増加傾向、男女差は縮小しているが依然として差は大きい

家事関連時間<sup>1)</sup>を男女別に平成28年と比べると、男性は53分で9分の増加、女性は208分で変化なしとなっている。(表2)

過去20年間の家事関連時間の推移をみると、平成13年に比べ、男性は15分の増加、女性は25分の減少となっている。男女の差は155分と平成13年の195分と比べると40分縮小しているが、依然として差は大きい。(図2、表2)

図2 男女別家事関連時間の推移(平成13年～令和3年)一週全体

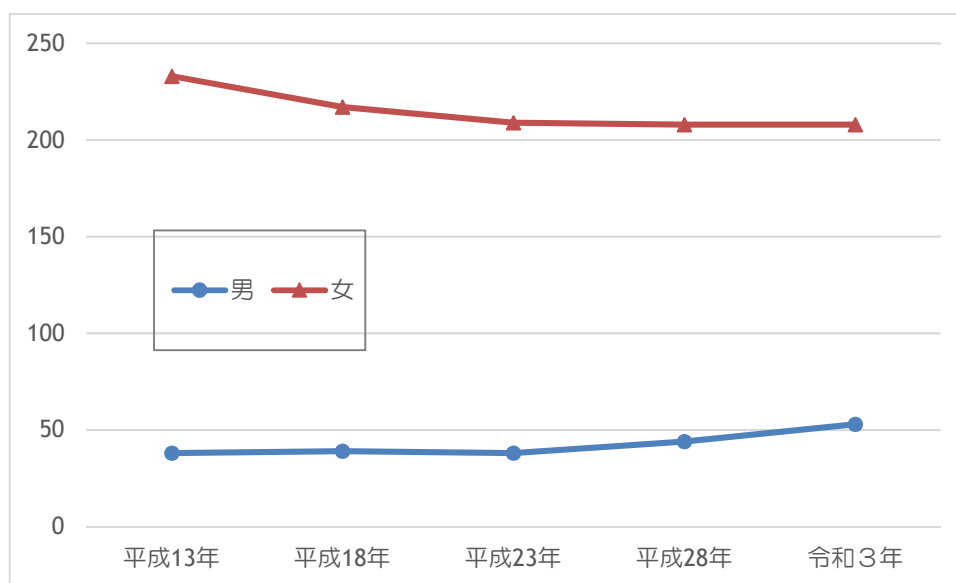


表2 男女別家事関連時間一週全体

	男	女	男女差 (分)
平成13年	38	233	-195
平成18年	39	217	-178
平成23年	38	209	-171
平成28年	44	208	-164
令和3年	53	208	-155

1) 「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」

### 3 仕事の状況

#### 5年前に比べ男性の仕事時間は24分の減少、女性は25分の減少

有業者(15歳以上)の仕事時間についてみると、男性が6時間40分、女性が4時間48分と男性が女性に比べ1時間52分長くなっている。平成28年と比べると、男性は24分の減少、女性は25分の減少となっており、男女共に大きく減少となっている。

年齢階級別にみると、男性は35～44歳が最も高く、女性は45～54歳が最も高くなっている。

(図3、表3)

図3 男女、年齢階級別仕事時間(平成23、28年)一週全体

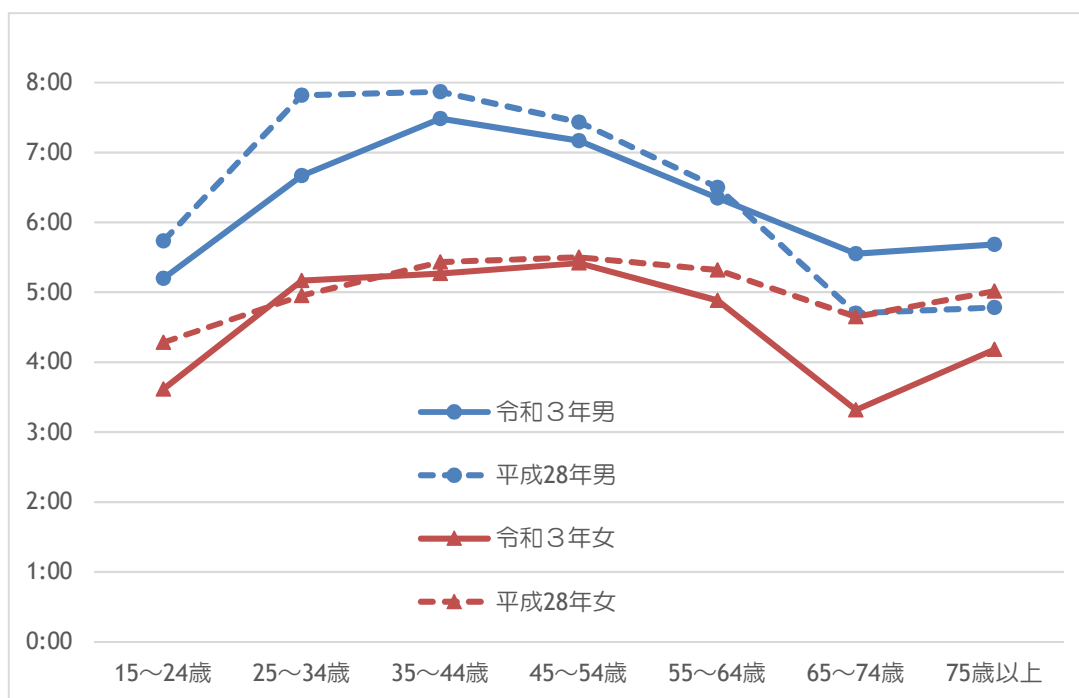


表3 男女、年齢階級別仕事時間(平成23、28年)一週全体

(時間、分)

年齢	平成28年		令和3年	
	男	女	男	女
総数	7.04	5.13	6.40	4.48
15～24歳	5.44	4.17	5.12	3.37
25～34歳	7.49	4.57	6.40	5.10
35～44歳	7.52	5.26	7.29	5.16
45～54歳	7.26	5.30	7.10	5.25
55～64歳	6.30	5.19	6.21	4.53
65～74歳	4.42	4.39	5.33	3.19
75歳以上	4.47	5.01	5.41	4.11

有業者のうち雇用されている人の仕事を雇用形態別にみると、「正規の職員・従業員」が6時間52分、「正規の職員・従業員以外」は4時間21分となっており、平成28年と比べると、「正規の職員・従業員」は8分の減少、「正規の職員・従業員以外」は43分の減少と大きな減少となっている。

「正規の職員・従業員以外」の内訳について、男女別に平成28年と比べると、「アルバイト」が男性は1時間の減少、女性は1時間32分の減少と大きな減少となっている一方、男性は「パート」が58分の増加と大きな増加となっている。

表3-1 男女、雇用形態別仕事時間(平成28年、令和3年)一週全体、有業者

		仕事時間		
		平成28年	令和3年	増減
総数	総数	6.13	5.48	-0.25
	雇用されている人	6.09	5.46	-0.23
	正規の職員・従業員	7.00	6.52	-0.08
	正規の職員・従業員以外	5.04	4.21	-0.43
	パート	4.08	4.00	-0.08
	アルバイト	4.59	3.26	-1.33
男	総数	7.04	6.40	-0.24
	雇用されている人	7.02	6.41	-0.21
	正規の職員・従業員	7.33	7.10	-0.23
	正規の職員・従業員以外	5.50	5.14	-0.36
	パート	4.37	5.35	0.58
	アルバイト	5.35	4.35	-1.00
女	総数	5.13	4.48	-0.25
	雇用されている人	5.14	4.51	-0.23
	正規の職員・従業員	6.05	6.13	0.08
	正規の職員・従業員以外	4.38	3.59	-0.39
	パート	4.08	3.53	-0.15
	アルバイト	4.18	2.46	-1.32



#### 4 スマートフォン・パソコンなどの使用状況

##### スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合は男女共に大きく増加

スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合(以下「使用割合」)は、平成28年と比べると、男性が77.3%で23.9ポイントの増加、女性が75.7%で20.7ポイントの増加となっており、男女共に大きな増加となっている。

年齢階級別にみると、男性は20～24歳、女性は15～19歳で最も高くなっており、10歳～64歳の年齢階級での使用割合は、男女共に70%を超えとなっている。

図4 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合  
(平成28年、令和3年)一週全体

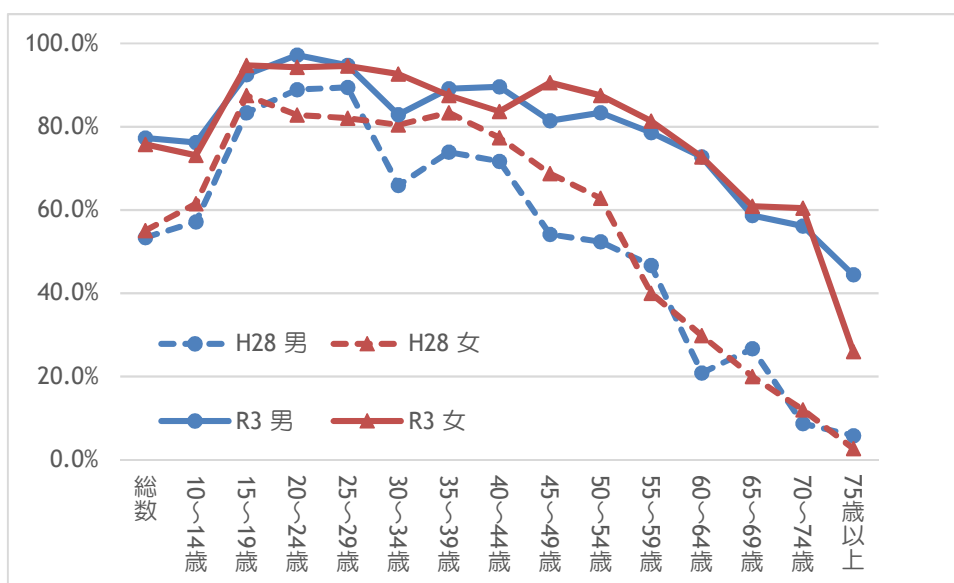


表4 男女、年齢階級別スマートフォン・パソコンなどを使用した人の割合  
(平成28年、令和3年)一週全体

	H28		R3	
	男	女	男	女
総数	53.4%	55.0%	77.3%	75.7%
10～14歳	57.1%	61.5%	76.2%	73.2%
15～19歳	83.3%	87.5%	92.5%	94.7%
20～24歳	88.9%	82.9%	97.2%	94.3%
25～29歳	89.5%	82.1%	94.7%	94.6%
30～34歳	65.9%	80.4%	82.9%	92.7%
35～39歳	73.9%	83.3%	89.1%	87.5%
40～44歳	71.7%	77.4%	89.6%	83.7%
45～49歳	54.2%	68.8%	81.5%	90.6%
50～54歳	52.4%	62.8%	83.3%	87.5%
55～59歳	46.7%	40.0%	78.6%	81.4%
60～64歳	20.8%	29.8%	72.7%	72.7%
65～69歳	26.7%	20.0%	58.7%	60.9%
70～74歳	8.7%	12.0%	56.1%	60.5%
75歳以上	5.8%	2.7%	44.4%	26.0%



## 結果の解説

### Ⅱ 1年間の主な生活時間

- 1 学習・自己啓発・訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
  - (1) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は36.6%で、5年前より2.8ポイント上昇
  - (2) 男性は「パソコンなどの情報処理」の行動者率が最も高く、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い
- 2 ボランティア活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
  - (1) 「ボランティア活動」の行動率は17.4%で5年前より7.7ポイントの低下
  - (2) 行動者率は「まちづくりのための活動」が最も高い
- 3 スポーツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
  - (1) 「スポーツ」の行動率は65.8%で5年前より2.1ポイント低下
  - (2) 行動者率は「ウォーキング・軽い体操」が最も高い
  - (3) 年齢階級別の行動率は全ての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」が最も高い
- 4 趣味・娯楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
  - (1) 「趣味・娯楽」の行動者率は79.1%で5年前より4.8ポイント低下
  - (2) 行動者率は「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高い
  - (3) 年齢階級別の行動率は15歳～54歳で「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高い
- 5 旅行・行楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
  - (1) 「旅行・行楽」の行動率は30.1%で、5年前より43.4ポイントの大幅な低下
  - (2) 行動者率は「行楽（日帰り）」が23.0%、「観光旅行（国内）」が11.9%
- 6 全国との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

#### - 主な用語 -

##### ○ 学習・自己啓発・訓練

個人の自由時間の中で行う学習・自己啓発・訓練で、社会人が仕事として行うものや、学生が学業として行うものは除く。その内容を9種類に分類し調査。

##### ○ ボランティア

報酬を目的としないで、自分の労力、時間等を提供して地域社会や個人・団体の福祉のために行っている活動をいう。その対象や目的を11種類に分類し調査。

##### ○ スポーツ

個人の自由時間の中で行うスポーツで、学生が体育の授業で行うものや職業スポーツ選手が仕事で行うものを除き、クラブ活動や部活動を含む。23種類に分類し調査。

##### ○ 趣味・娯楽

仕事、学業、家事などのように業務的に行う活動ではなく、個人の自由時間の中で行うものをいう。35種類に分類し調査。

##### ○ 旅行・行楽

旅行は1泊2日以上にわたって行う全ての旅行をいい、日帰りの旅行を除く。行楽とは、日常生活圏を離れて宿泊を伴わず、半日以上かけて行う日帰りのものをいい、夜行日帰りも含む。国内・海外及び旅行目的を4種類に分類し調査。

## 1 学習・自己啓発・訓練

### (1) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は36.6%で、5年前より28ポイント上昇

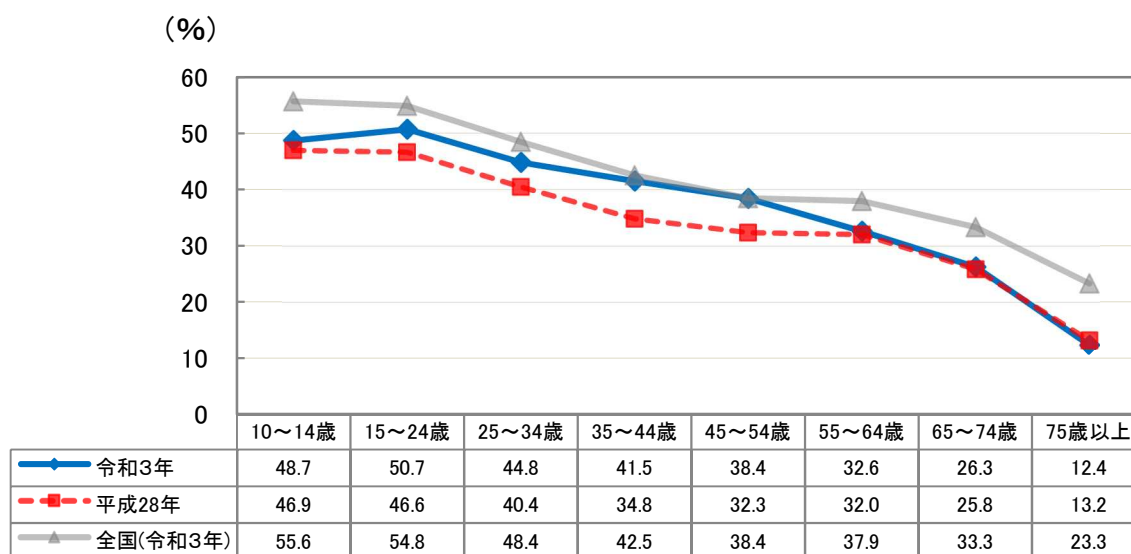
「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（令和2年10月20日～令和3年10月19日。以下同じ）に何らかの種類の活動を行った人の数は46万2千人で10歳以上人口に占める割合（以下「行動者率」という。）は36.6%となっている。男女別にみると、男性が21万6千人、女性が24万7千人となっており、行動者率は男性が34.8%、女性が38.4%で女性が男性より3.6ポイント高くなっている。（表1）

平成28年と比べると、行動者率は2.8ポイント上昇している。これを男女別にみると男性が1.3ポイント、女性が4.3ポイントそれぞれ上昇している。年齢階級別にみると、75歳を除く全ての年齢階級で上昇しており、35～44歳では6.7ポイント、45～54歳では6.1ポイントそれぞれ上昇しており、上昇幅が大きくなっている。（図1-1）

表1 「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者数及び行動者率

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	416	462	46	33.8	36.6	2.8
男	202	216	14	33.5	34.8	1.3
女	214	247	33	34.1	38.4	4.3

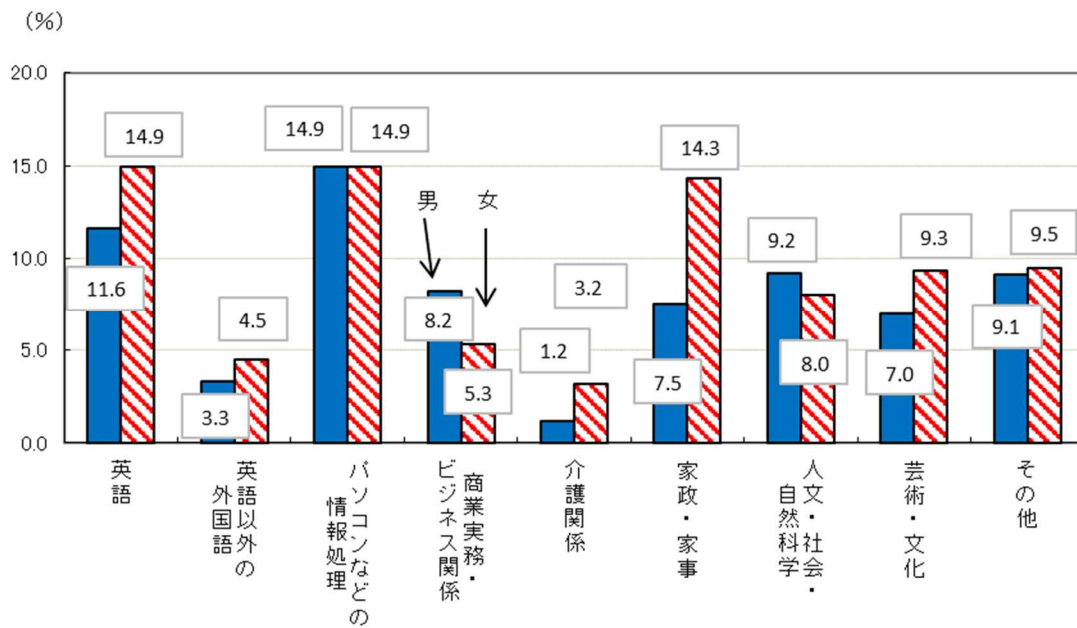
図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



(2) 男性は「パソコンなどの情報処理」の行動者率が最も高く、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に男女別の行動者率をみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が14.9%と最も高く、次いで「英語」が11.6%、「人文・社会・自然科学」が9.2%などとなっている。女性は「英語」と「パソコンなどの情報処理」が14.9%と最も高く、次いで「家事・家政」が14.3%、「芸術・文化」が9.3%などとなっている。

図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率(令和3年)



## 2 ボランティア活動

### (1) 「ボランティア活動」の行動率は17.4%で5年前より7.7ポイントの低下

「ボランティア活動」の行動者数は21万9千人で行動者率は17.4%となっている。男女別にみると、男性が11万1千人、女性が10万9千人となっており、行動者率は男性が17.8%、女性が16.9%で、男性が女性より0.9ポイント高くなっている。

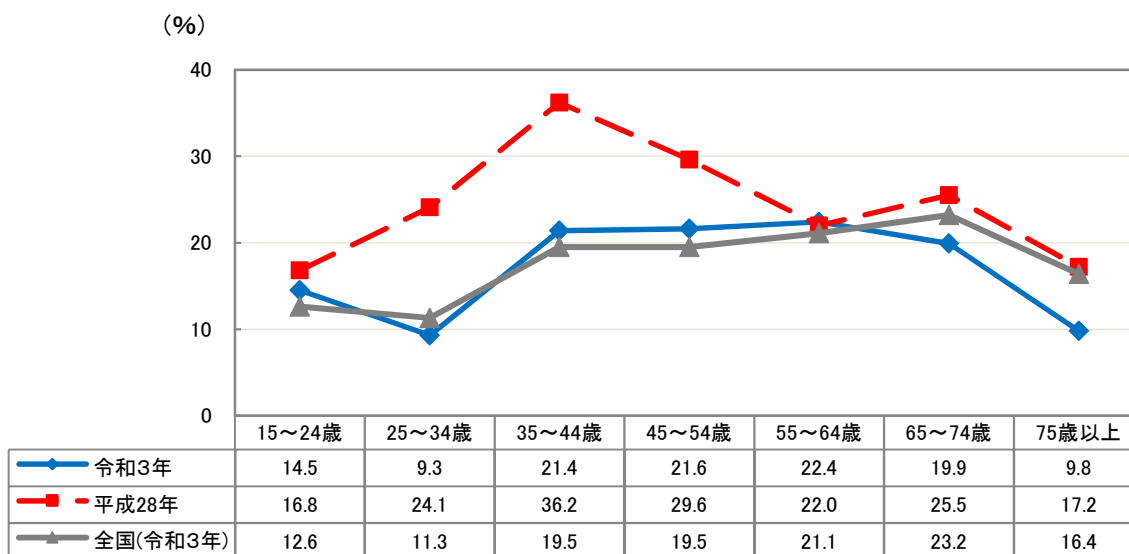
行動者率は平成28年に比べ7.7ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が8.0ポイントの低下、女性が7.6ポイントの低下となっている。（表2）

行動者率を年齢階級別にみると、55～64歳が22.4%と最も高く、25～34歳が9.3%と最も低くなっている。平成28年と比べると、55～64歳を除く全ての年齢階級で低下しており、特に25～34歳と35～44歳で14.8%の大幅な低下となっている。（図2-1）

表2 「ボランティア活動」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	309	219	-90	25.1	17.4	-7.7
男	156	111	-45	25.8	17.8	-8.0
女	154	109	-45	24.5	16.9	-7.6

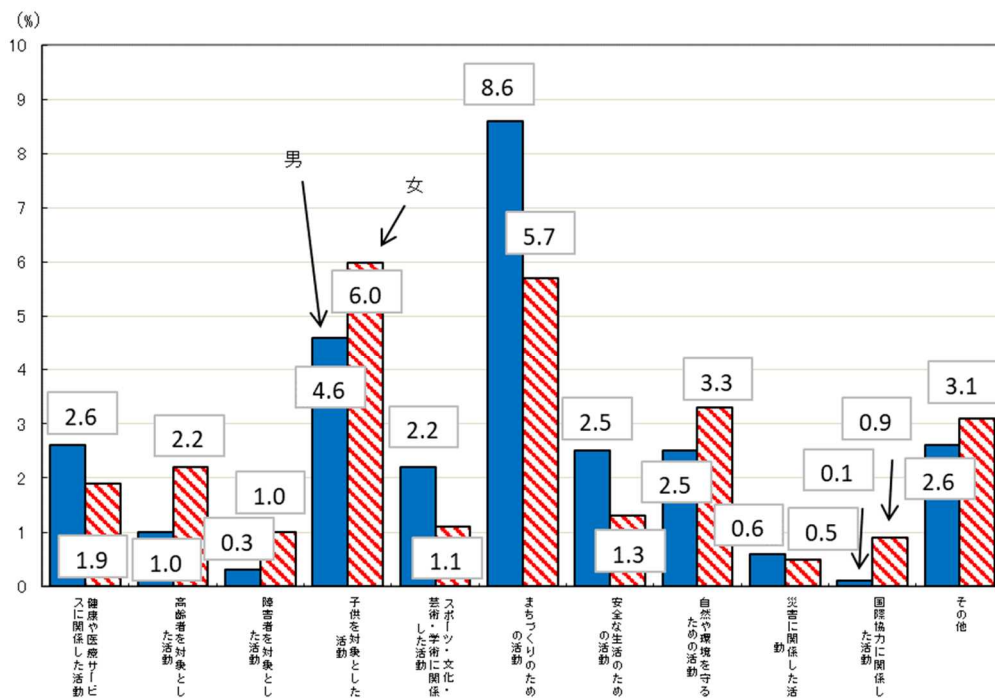
図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



## (2) 行動者率は「まちづくりのための活動」が最も高い

「ボランティア活動」の種類別行動者率を男女別にみると、男性は「まちづくりのための活動」が8.6%で最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が4.6%、「健康や医療サービスに関係した活動」が2.6%などとなっている。女性は「子供を対象とした活動」が6.0%で最も高く、次いで「まちづくりのための活動」が5.7%、「自然や環境を守るための活動」が3.3%などとなっている。

図2-2 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率(令和3年)



### 3 スポーツ

#### (1) 「スポーツ」の行動率は65.8%で5年前より21ポイント低下

「スポーツ」の行動者数は83万2千人で行動者率は65.8%となっている。男女別にみると、男性が42万6千人、女性が40万6千人となっており、行動者率は男性が68.7%、女性が63.1%で男性が女性より4.6ポイント高くなっている。

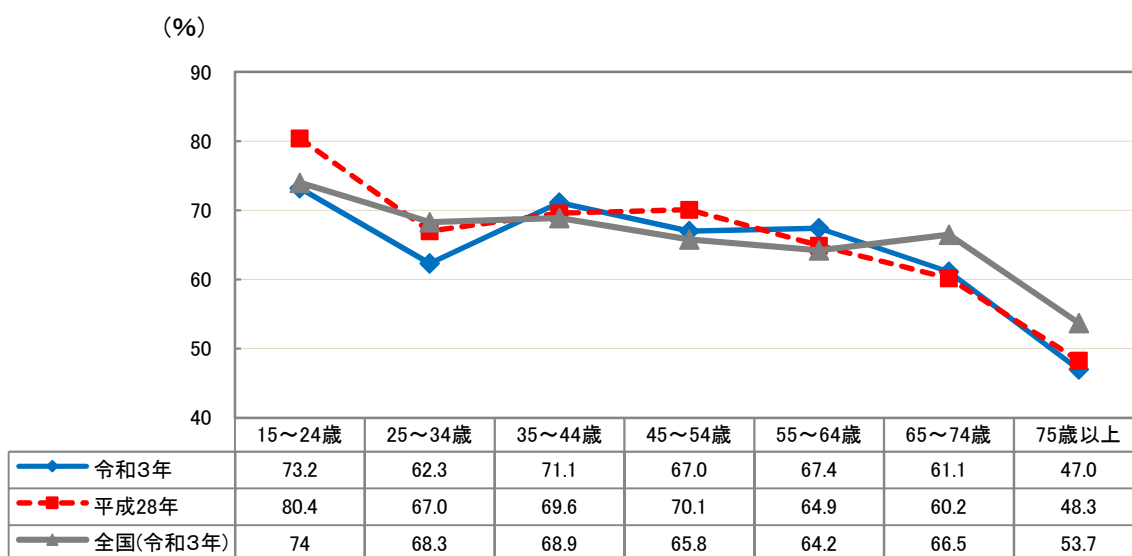
行動者率は平成28年に比べ2.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が5.3ポイントの低下、女性が1.0ポイントの上昇となっている。（表3）

行動者率を年齢階級別にみると、15歳～24歳が73.2%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低くなっている。平成28年と比べると、15～24歳が7.2ポイント、25～34歳が4.7ポイントの低下と大きなマイナスとなっている。（図3-1）

表3 「スポーツ」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	836	832	-4	67.9	65.8	-2.1
男	446	426	-20	74.0	68.7	-5.3
女	389	406	17	62.1	63.1	1.0

図3-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)

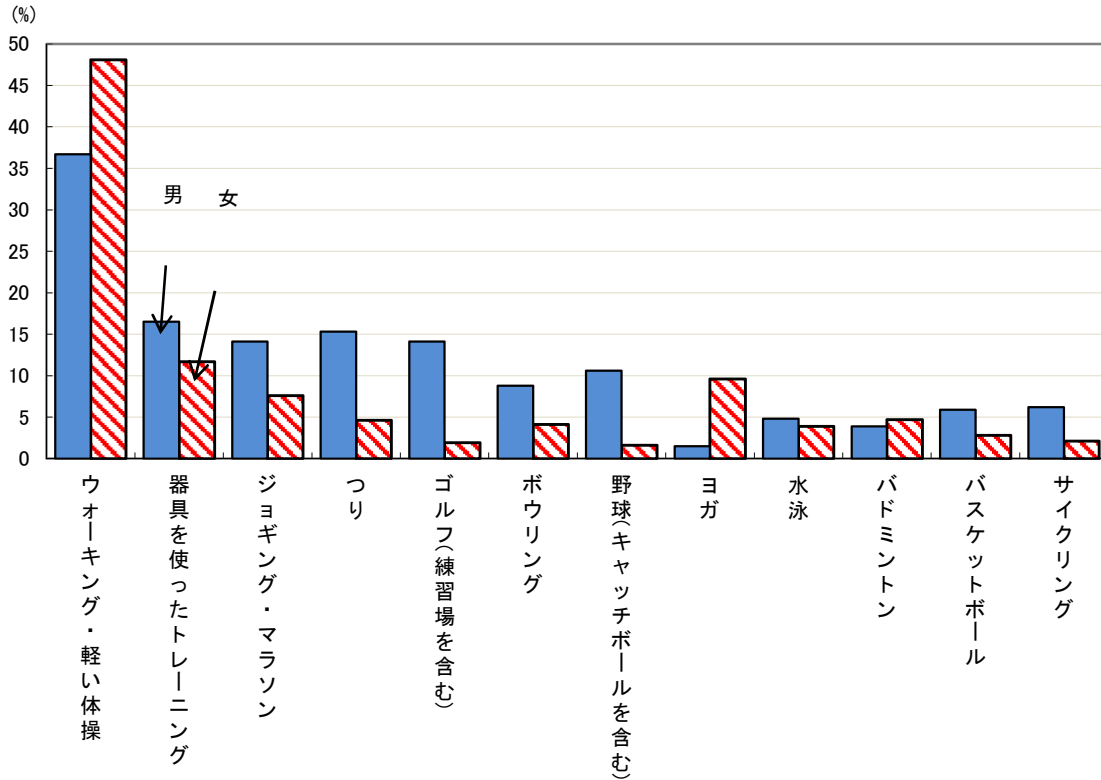


#### (2) 行動者率は「ウォーキング・軽い体操」が最も高い

「スポーツ」の種類、男女別に行動者率をみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」、「ジョギング・マラソン」となっている。多くのスポーツで男性が女性を上回っているが、「ウォーキング・軽い体操」、「ヨガ」、「バドミントン」などについては、女性の行動者率が男性の行動者率よりも高くなっている。（図3-2）



図3-2 「スポーツ」の種類、男女別行動者率(令和3年)



(3) 年齢階級別の行動率は全ての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」が最も高い

「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、全ての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっており、次いで「器具を使ったトレーニング」、「ジョギング・マラソン」、「つり」などとなっている。

図3-3 「スポーツ」の年齢階級別、種類別行動者率(令和3年)

	1位	2位	3位
総数	ウォーキング・軽い体操 42.6%	器具を使ったトレーニング 14.1%	ジョギング・マラソン 10.8%
15~24歳	ウォーキング・軽い体操 31.0%	ジョギング・マラソン 20.5%	器具を使ったトレーニング 16.5%
25~34歳	ウォーキング・軽い体操 44.3%	器具を使ったトレーニング 17.1%	つり 13.8%
35~44歳	ウォーキング・軽い体操 39.5%	つり 15.7%	器具を使ったトレーニング 14.6%
45~54歳	ウォーキング・軽い体操 49.6%	器具を使ったトレーニング 16.6%	つり 12.5%
55~64歳	ウォーキング・軽い体操 48.4%	器具を使ったトレーニング 13.0%	ゴルフ(練習場を含む) 12.2%
65~74歳	ウォーキング・軽い体操 47.3%	器具を使ったトレーニング 13.7%	グラウンドゴルフ 6.4%
75歳以上	ウォーキング・軽い体操 33.0%	グラウンドゴルフ 8.5%	器具を使ったトレーニング 4.9%

## 4 趣味・娯楽

### (1) 「趣味・娯楽」の行動者率は79.1%で5年前より4.8ポイント低下

「趣味・娯楽」の行動者数は93万4千人で行動者率は79.1%となっている。男女別にみると、男性が46万6千人、女性が46万8千人となっており、行動者率は男性が80.6%、女性が77.7%で男性が女性より2.9ポイント高くなっている。

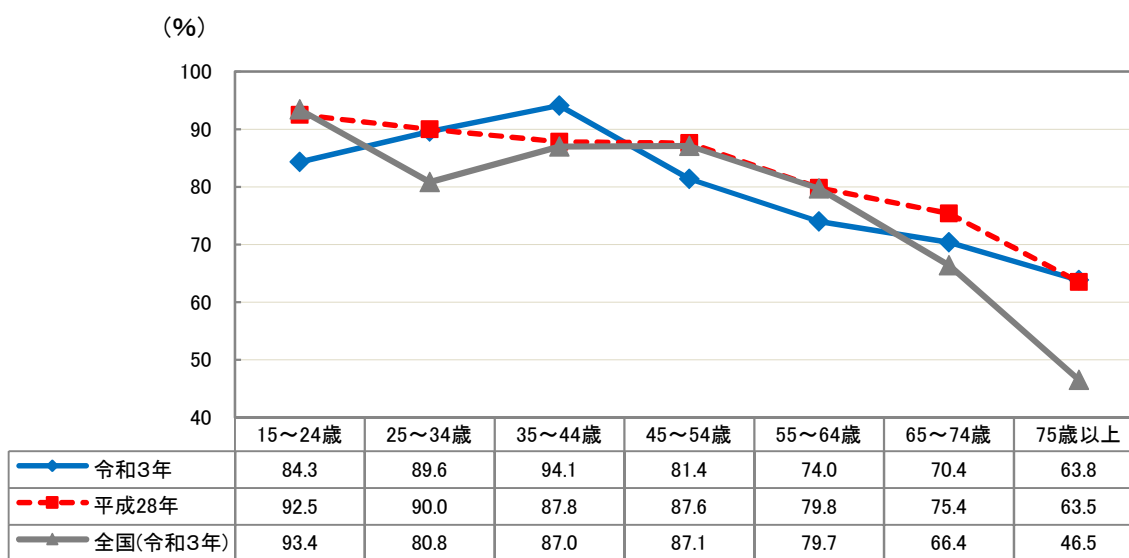
行動者率は平成28年に比べ4.8ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が3.0ポイント低下、女性が6.5ポイント低下している（表4）。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。（図4-1）

表4 「趣味・娯楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	1033	934	-99	83.9	79.1	-4.8
男	505	466	-39	83.6	80.6	-3.0
女	528	468	-60	84.2	77.7	-6.5

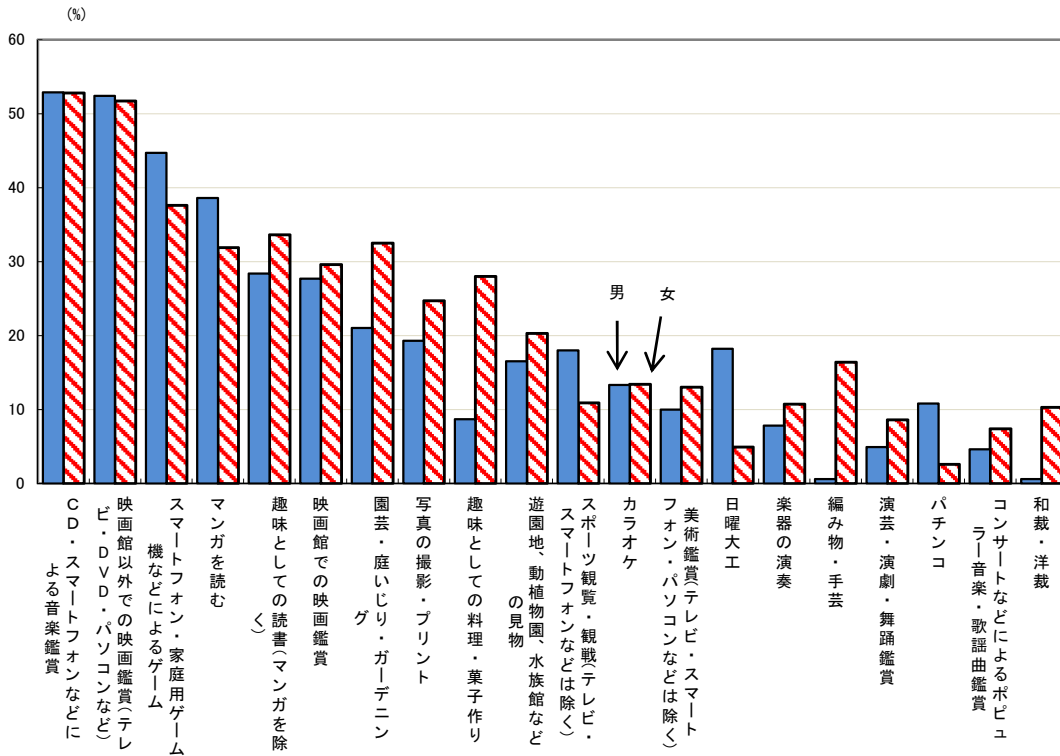
図4-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



### (2) 行動者率は「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高い

「趣味・娯楽」の種類、男女別に行動者率をみると、男女共に「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高く、次いで「映画館以外での映画鑑賞」、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」などとなっている。

図4-2 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率(令和3年)



(3) 年齢階級別の行動率は15歳～54歳で「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高い

「趣味・娯楽」の年齢階級別に種類別の行動者率をみると、15歳～54歳で「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も高くなっており、次いで「映画館以外での映画鑑賞」、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」などとなっている。また、年齢階級が高くなるにつれ「園芸・庭いじり・ガーデニング」が上位を占めている。

図4-3 「趣味・娯楽」の年齢階級別、種類別行動者率(令和3年)

	1位	2位	3位
総数	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 52.8%	映画館以外での映画鑑賞 52.0%	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 41.0%
15～24歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 80.2%	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 72.8%	映画館以外での映画鑑賞 68.2%
25～34歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 75.1%	映画館以外での映画鑑賞 68.3%	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 67.0%
35～44歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 70.2%	映画館以外での映画鑑賞 63.9%	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 60.9%
45～54歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 63.6%	映画館以外での映画鑑賞 60.2%	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 48.4%
55～64歳	映画館以外での映画鑑賞 54.0%	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞 51.5%	園芸・庭いじり・ガーデニング 35.0%
65～74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング 42.3%	映画館以外での映画鑑賞 37.2%	趣味としての読書(マンガを除く) 29.7%
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング 36.0%	趣味としての読書(マンガを除く) 21.4%	映画館以外での映画鑑賞 20.4%

## 5 旅行・行楽

### (1) 「旅行・行楽」の行動率は30.1%で、5年前より43.4ポイントの大幅な低下

「旅行・行楽」の行動者数は35万5千人で行動者率は30.1%となっている。男女別にみると、男性が15万1千人、女性が20万4千人となっており、行動者率は男性が26.1%、女性が33.9%で女性が男性より13.8ポイント高くなっている。

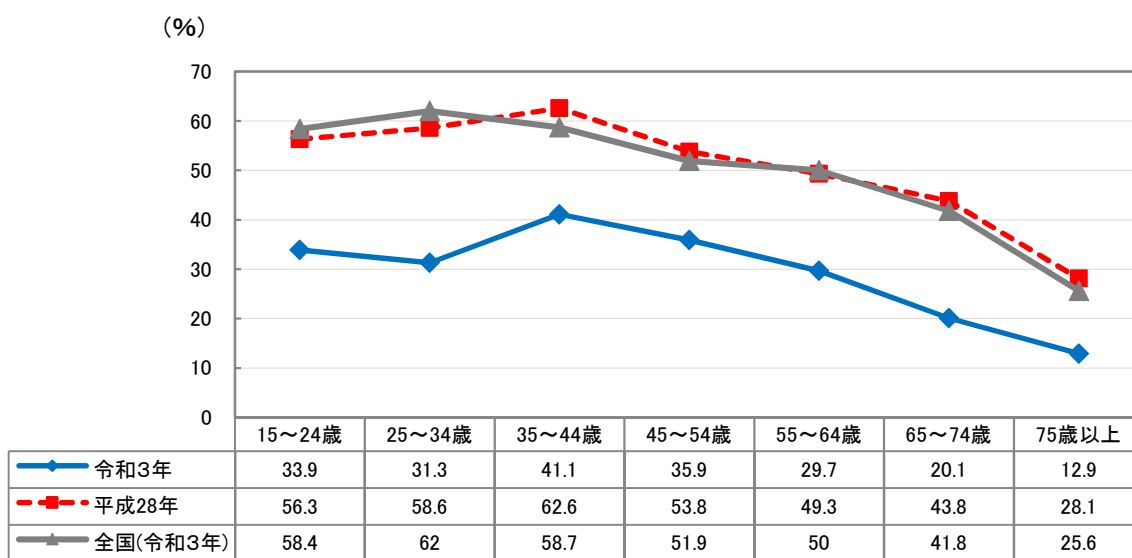
行動者率は平成28年に比べ43.4ポイントの大幅な低下となっている。これを男女別にみると、男性は45.0ポイント、女性は41.9ポイントといずれも大幅な低下となっている。（表5）

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が最も高く、年齢が高くなるにつれて低下しており、全ての年齢階級で平成28年と比べ大幅に低下している。（図5-1）

表5 「旅行・行楽」の男女別行動者数及び行動者率(平成28年、令和3年)

	行動者数(千人)			行動者率(%、ポイント)		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
総数	645	355	-290	73.5	30.1	-43.4
男	290	151	-139	71.1	26.1	-45.0
女	355	204	-151	75.8	33.9	-41.9

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率(平成28年、令和3年)



### (2) 行動者率は「行楽(日帰り)」が23.0%、「観光旅行(国内)」が11.9%

「旅行・行楽」の種類別に行動者率をみると、「行楽(日帰り)」が23.0%、「観光旅行(国内)」が11.9%、「帰省・訪問などの旅行」が6.2%、「観光旅行(海外)」が0.4%などとなっている。これを平成28年と比べると、「行楽(日帰り)」が11.2ポイントの低下、「観光旅行(国内)」が16.4ポイントの低下となっているなど全ての種類で低下している。

男女別にみると、全ての種類で女性の行動者率が高くなっており、「行楽(日帰り)」では男性より4.8ポイント高く、「観光旅行(国内)」では男性より2.8ポイント高くなっている。

図5-2 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成28年、令和3年)

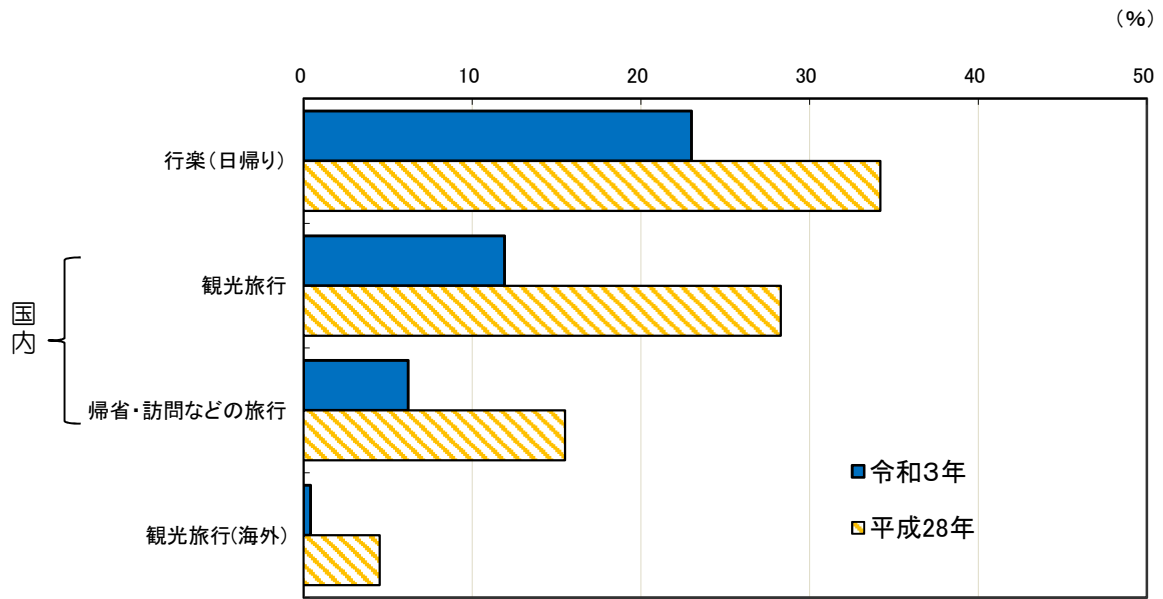
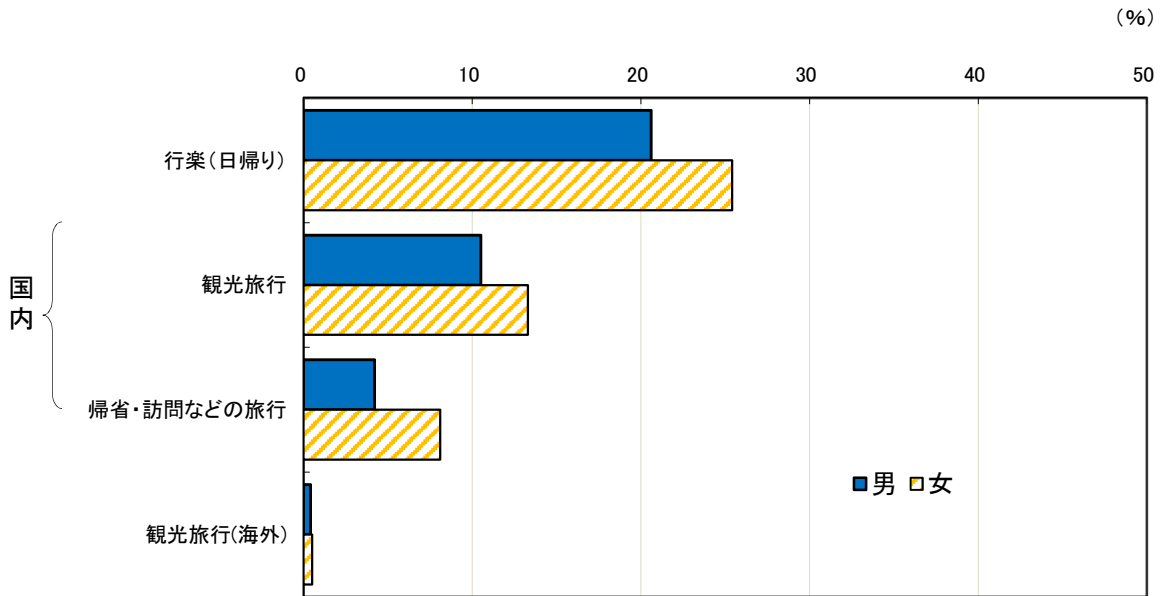


図5-3 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率(令和3年)



## 6 全国との比較

表6 生活行動行動者率の全国との比較(令和3年)

学習・自己啓発・訓練			ボランティア			スポーツ			趣味・娯楽			旅行・行楽		
順位	都道府県名	(%)	順位	都道府県名	(%)	順位	都道府県名	(%)	順位	都道府県名	(%)	順位	都道府県名	(%)
1	東京都	52.8	1	島根県	25.6	1	東京都	74.5	1	東京都	91.4	1	愛知県	57.6
2	神奈川県	46.7	2	佐賀県	24.8	2	神奈川県	71.8	2	愛知県	89.3	2	東京都	55.5
3	京都府	43.5	3	岩手県	24.4	3	埼玉県	69.3	3	神奈川県	89.2	3	神奈川県	54.5
4	千葉県	42.0	4	滋賀県	24.2	4	愛知県	68.8	4	埼玉県	88.4	4	京都府	54.2
5	大阪府	41.3	5	鳥取県	24.1	5	千葉県	67.4	5	宮城県	87.0	5	福岡県	52.3
6	埼玉県	40.0	6	山形県	23.6	6	滋賀県	67.2	6	千葉県	87.0	6	宮城県	52.2
7	奈良県	39.8	7	岡山県	23.2	7	群馬県	67.0	7	大阪府	86.7	7	滋賀県	52.2
8	滋賀県	39.7	8	鹿児島県	22.3	8	京都府	67.0	8	滋賀県	86.4	8	大阪府	51.9
	全国	39.6	9	熊本県	22.1	9	福岡県	67.0		全国	86.3	9	兵庫県	51.6
9	兵庫県	39.5	10	長野県	22.0	10	熊本県	66.6	9	石川県	86.2	10	埼玉県	51.5
10	愛知県	39.0	11	福井県	21.7		全国	66.5	10	奈良県	86.2	11	北海道	51.0
11	広島県	38.4	12	岐阜県	21.7	11	兵庫県	66.4	11	福岡県	85.8	12	群馬県	50.8
12	福岡県	37.7	13	山梨県	21.1	12	静岡県	66.3	12	京都府	85.6	13	熊本県	50.5
13	宮城県	37.5	14	長崎県	21.0	13	大阪府	66.1	13	北海道	85.4	14	奈良県	50.4
14	佐賀県	37.2	15	秋田県	20.9	14	茨城県	65.8	14	兵庫県	85.4		全国	49.5
15	岡山県	37.1	16	宮城県	20.7	15	宮崎県	65.8	15	茨城県	85.3	15	岐阜県	48.6
16	長野県	36.6	17	石川県	20.7	16	沖縄県	65.8	16	群馬県	85.2	16	千葉県	47.9
17	沖縄県	36.6	18	大分県	20.3	17	広島県	65.3	17	福井県	85.2	17	新潟県	47.6
18	茨城県	36.5	19	山口県	20.1	18	奈良県	64.8	18	静岡県	85.1	18	佐賀県	47.5
19	山梨県	36.5	20	宮崎県	20.1	19	岡山県	64.8	19	広島県	85.1	19	栃木県	47.3
20	静岡県	36.5	21	福島県	19.7	20	宮城県	64.4	20	岡山県	85.0	20	広島県	47.1
21	岐阜県	36.1	22	愛媛県	19.6	21	三重県	64.3	21	岐阜県	84.9	21	三重県	47.0
22	福井県	35.8	23	富山県	19.5	22	岐阜県	64.1	22	長野県	84.8	22	長野県	46.9
23	熊本県	35.7	24	新潟県	19.3	23	長野県	64.0	23	愛媛県	84.3	23	山梨県	46.7
24	石川県	35.6	25	三重県	19.3	24	愛媛県	64.0	24	三重県	84.2	24	岩手県	45.3
25	群馬県	35.2	26	群馬県	19.2	25	鹿児島県	63.5	25	熊本県	84.1	25	茨城県	45.0
26	鹿児島県	35.2	27	福岡県	19.1	26	石川県	63.4	26	新潟県	84.0	26	大分県	45.0
27	北海道	35.0	28	静岡県	18.9	27	山口県	63.2	27	栃木県	83.9	27	秋田県	44.8
28	山口県	34.8	29	高知県	18.9	28	大分県	63.1	28	山口県	83.9	28	石川県	44.7
29	新潟県	34.5	30	広島県	18.6	29	佐賀県	62.8	29	和歌山県	83.3	29	福島県	44.4
30	愛媛県	34.5	31	奈良県	18.5	30	栃木県	62.6	30	山梨県	83.1	30	山形県	44.3
31	三重県	34.4	32	和歌山県	18.2	31	北海道	62.2	31	岩手県	82.9	31	福井県	44.3
32	鳥取県	34.1	33	香川県	18.1	32	山梨県	62.2	32	香川県	82.9	32	和歌山県	44.1
33	徳島県	34.1		全国	17.8	33	香川県	61.8	33	富山県	82.6	33	山口県	43.5
34	香川県	34.1	34	兵庫県	17.7	34	福井県	61.5	34	島根県	82.5	34	鹿児島県	43.3
35	富山県	33.4	35	徳島県	17.4	35	島根県	61.4	35	山形県	82.4	35	岡山県	43.0
36	島根県	33.3	36	沖縄県	17.4	36	鳥取県	61.2	36	大分県	82.3	36	宮崎県	42.8
37	大分県	33.2	37	茨城県	17.1	37	徳島県	60.9	37	秋田県	82.1	37	静岡県	41.3
38	栃木県	32.8	38	神奈川県	17.0	38	和歌山県	59.8	38	佐賀県	82.1	38	富山県	41.1
39	福島県	31.5	39	愛知県	16.6	39	富山県	59.7	39	鳥取県	81.7	39	島根県	39.8
40	和歌山県	31.3	40	京都府	16.6	40	福島県	59.5	40	高知県	81.7	40	高知県	39.2
41	宮崎県	31.3	41	栃木県	16.5	41	高知県	59.4	41	宮崎県	81.6	41	香川県	39.0
42	長崎県	31.2	42	北海道	16.3	42	岩手県	59.1	42	福島県	81.5	42	鳥取県	38.4
43	山形県	31.1	43	埼玉県	15.6	43	新潟県	59.0	43	鹿児島県	81.0	43	愛媛県	37.4
44	高知県	30.3	44	東京都	15.5	44	山形県	58.4	44	徳島県	80.6	44	青森県	36.6
45	秋田県	29.2	45	千葉県	14.9	45	長崎県	57.8	45	沖縄県	80.0	45	長崎県	36.1
46	岩手県	28.9	46	大阪府	14.5	46	秋田県	57.1	46	長崎県	79.7	46	徳島県	32.2
47	青森県	25.4	47	青森県	14.0	47	青森県	52.1	47	青森県	78.6	47	沖縄県	31.1